

今から一年前、自動車の修理販売業を営むAさんの会社で大きな問題が起こりました。兄弟間のトラブルです。Aさんはこの出来事を通じて、事業の発展には信頼関係と対話が欠かせないことを学びました。

Aさんの会社は先代の父が創業し、父が社長、Aさんと兄が役員として経営にあたってきました。しかし近年、父の体調が優れず、いよいよ代替わりすることになりました。ある日、父から「次の社長はAに任せる」と後継指名を受けたのです。

Aさんは長年、長男である兄が会社を継ぐものと思っていた。そのため大変驚きましたが、父から総合的に判断した結果だと説明を受け、自分が引き受ける決意を固めました。しかし隣にいた兄は納得できなかつたようで、「なぜ社長は俺じゃないんだ」と強く反発しました。その怒りは大きく、その場は父が何とか収めました。

それからというもの、兄の勤務態度は明らかに変わりました。主に修理部門を任されていましたが、自ら現場に立つことが少なくなり、仕事を部下に任せて早めに退勤することも増えていったのです。その姿を見た社員の間には不満が広がり、職場の雰囲気も徐々に悪くなっていきました。Aさんは「このままでは会社の将来にも影響する」と感じながらも、どう対応すればいいのか分からず悩み続けていました。

そんな時、以前から所属していた倫理法人会で倫理指導を受ける機会を得ました。講師に悩みを打ち明けると、「Aさんは会社



相手を責めず自ら変わり 兄弟で会社を立て直す

をどうしたいのですか」と尋ねられました。Aさんが「父が築いた会社をさらに発展させたい」と答えると、講師は「そのためにはまずお兄さんとの関係を良くすること。社長の立場は譲れなくても、お兄さんが気持ちよく働ける環境を整えなさい」と助言しました。

Aさんはその言葉を真摯に受け止めました。そして、相手が変わることを求める前に、まず自分から歩み寄ろうと決意し、兄との話し合いの場を設けたのです。

久しぶりに兄と向き合ったAさんは、開口一番、「このような状況になり申し訳ありません。兄さんが働きやすい職場をつくっていきます」と伝えました。すると兄も「会社の足を引っ張るようなことをしてしまい、申し訳なかった。許してほしい」と素直に謝罪しました。兄もまた、自身の行動を反省していたのです。二人は固い握手を交わし、これからは会社のために力を合わせていくことを誓い合いました。

その後、Aさんは社長として、兄は副社長としてそれぞれの職責を担っています。以前のようなかまりはなくなり、強みを生かしながら会社経営に取り組んでいます。現在は地域一番の店を目指し、兄弟で力を合わせて会社の発展に励んでいます。この経験から、Aさんは相手を変えようとするのではなく、まず自らが歩み寄ることの大切さを学びました。今では、事業を支えるのは立場や肩書ではなく、互いを尊重し合う心であることを実感しています。